

令和4年度 研究功労者表彰式

全国農業関係試験研究場所長会

令和4年6月24日（金） 三会堂ビル（石垣記念ホール）

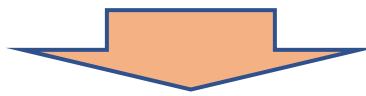
イチゴ主要病害の発生生態解明による効果的防除技術の確立 ～萎黄病、炭疽病、うどんこ病の防除技術～



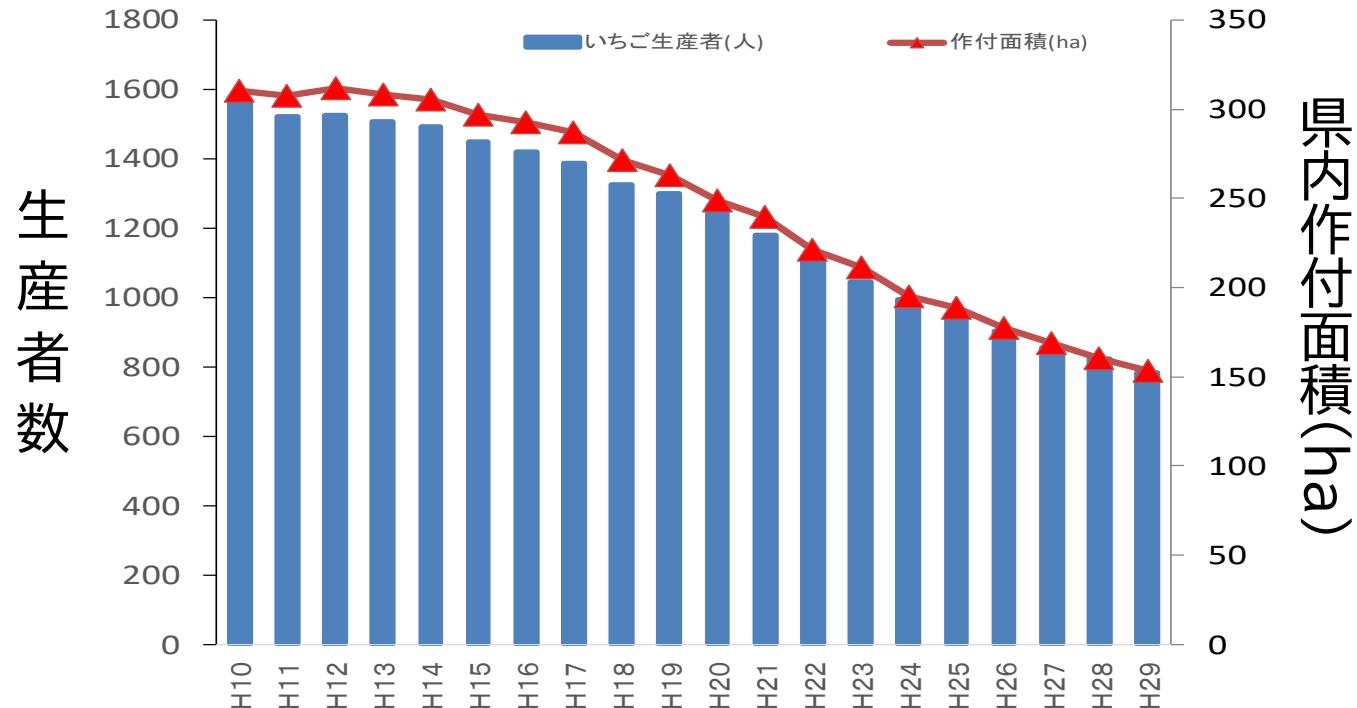
佐賀県農業試験研究センター 稲田 稔

■佐賀県におけるイチゴ従来品種の課題

- ・収穫量がやや少ない
- ・厳寒期の食味低下
- ・(高齢化、産地間競争)



生産者・作付面積の減少



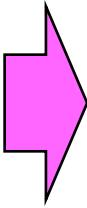
■新品種の育成・普及

- ・H30年 品種・商標登録
 - ・課題を克服
- ⇒ 県内の約9割で生産
生産のV字回復へ



■佐賀県での促成栽培イチゴの栽培体系

育苗圃 (春~秋)



本圃 (秋~翌春)



■病害による甚大な被害

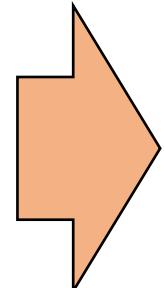
萎黄病



炭疽病



苗立枯れ



感染苗の本圃での発病



うどんこ病

■萎黄病の伝染源探索と防除対策

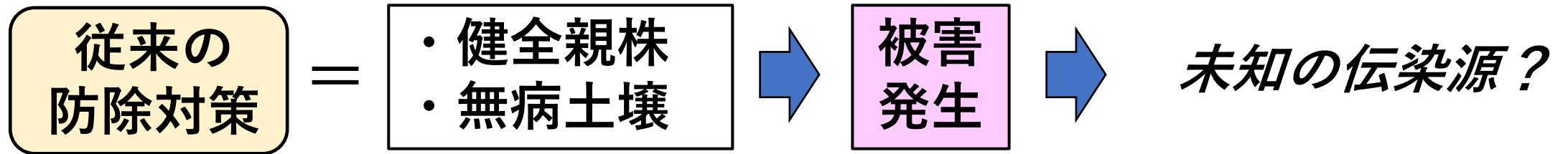


表 育苗圃での萎黄病菌の検出

調査対象	検出の有無
連年使用のポット	++
除草シート表面の土壌	+
棚(あみ面)	-
棚(支柱)	-
水路の水	-
圃場内の雑草	-

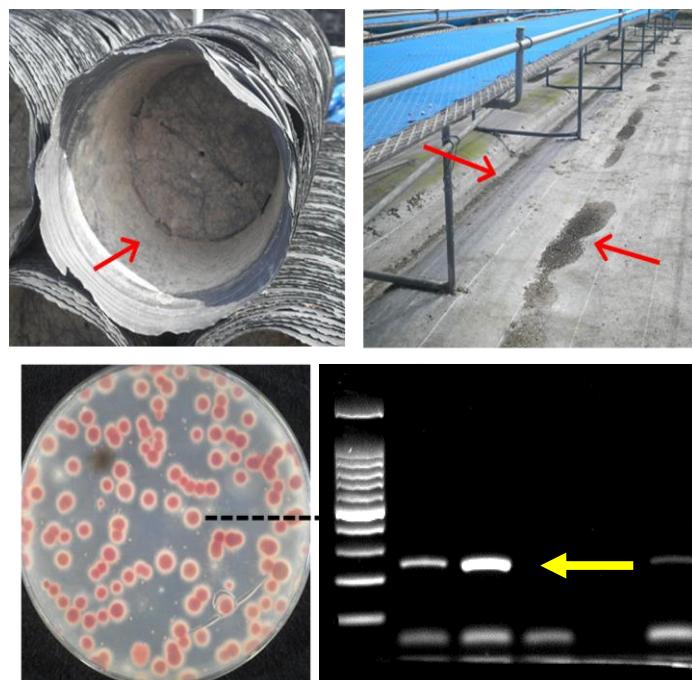


図 ポットおよび堆積土壌からの検出

新たな伝染源を確認

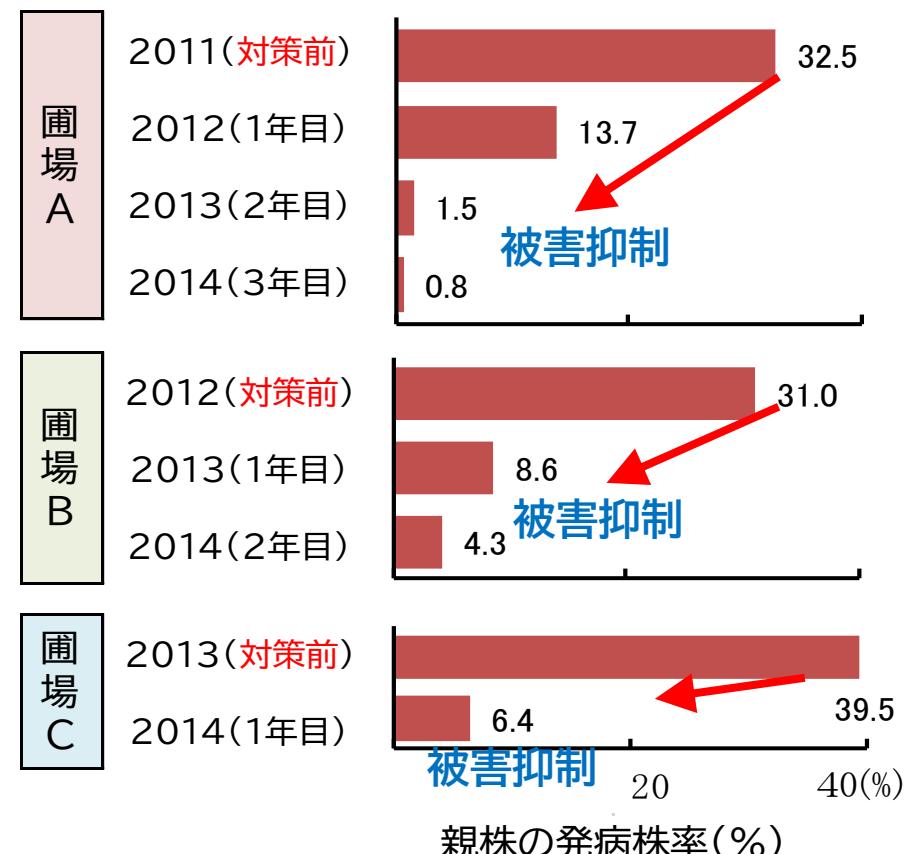
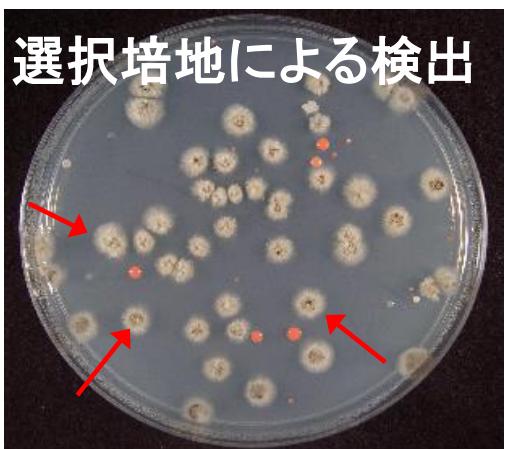
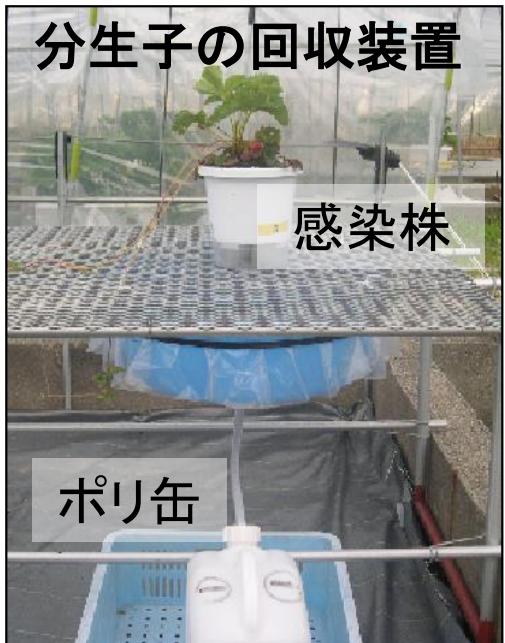


図 ポット更新と堆積土壌除去による防除効果

■炭疽病菌の伝染期間の把握



みかけ健全



発病

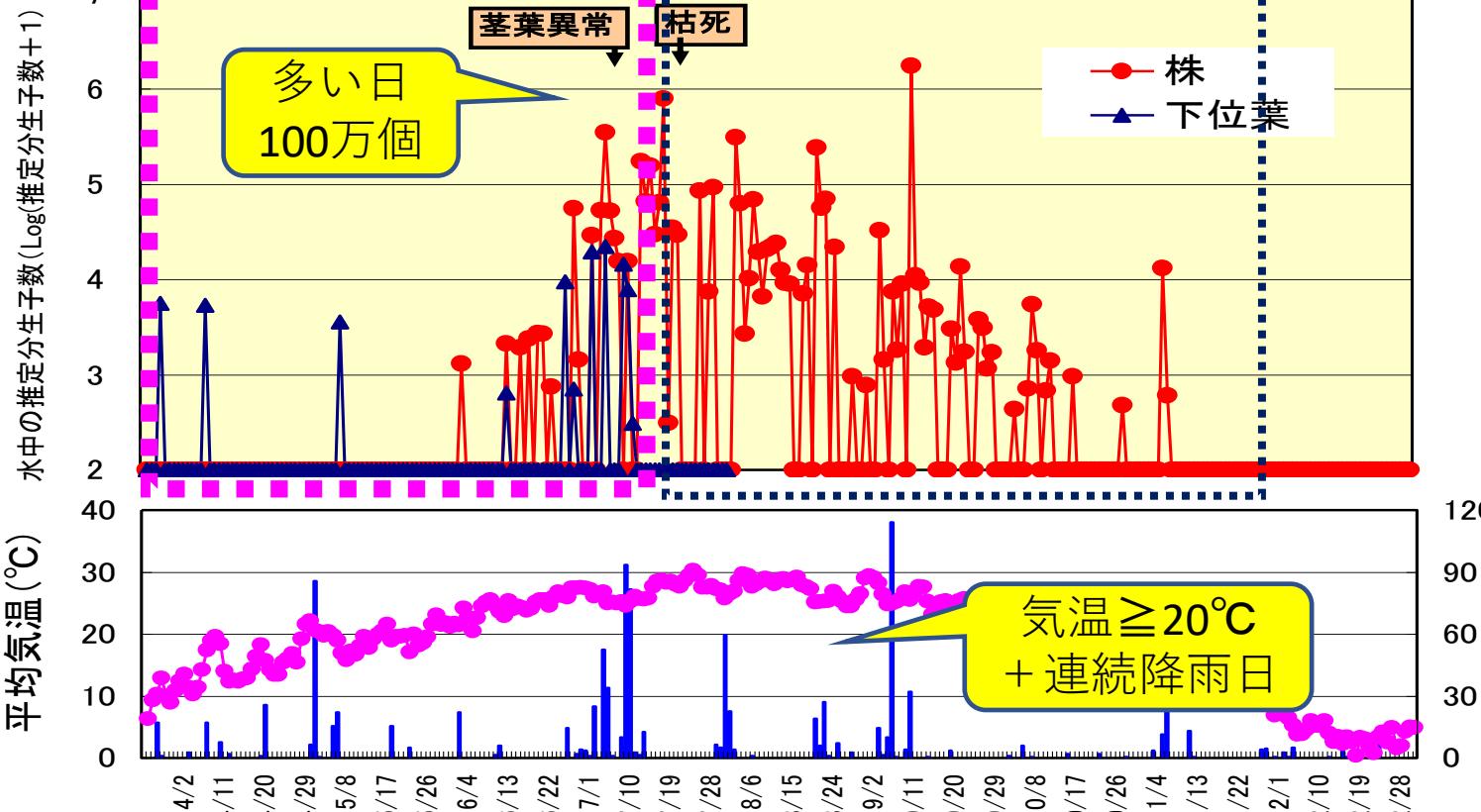
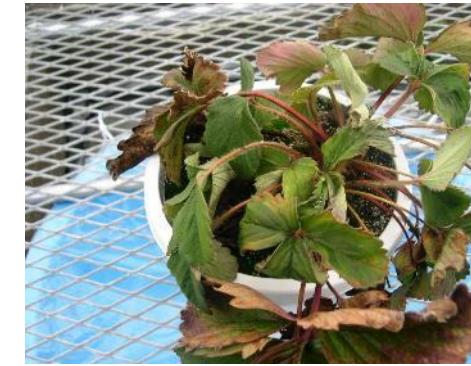


図 降雨及び灌水によって感染・発病株から飛散・流下したイチゴ炭疽病菌分生子数の推移(2005年)

育苗期を通じた対策が必要

■防除対策の検討

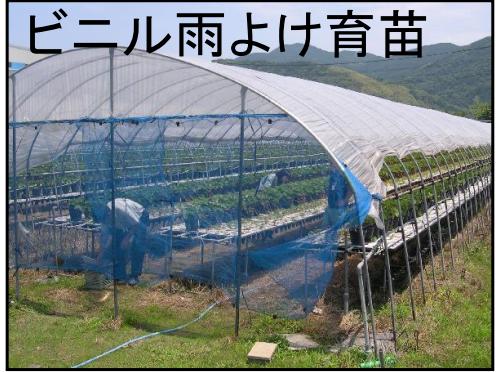


表 ビニル雨よけと薬剤防除による苗での防除効果

試験区	薬剤防除	防除価		
		1999	2000	2001 (年)
ビニル 雨よけ	薬剤防除	93	91	72
全期間	全期間	93	91	72
親株のみ	全期間	85	—	—
苗のみ	全期間	93	82	—
苗のみ	苗のみ	—	30	—
全期間		45	66	40
全期間		70	72	46
無処理の発病苗率(%)		49.3	48.2	50.7

育苗全期間の組合せが有効

散 布
無 散 布



感受性菌 接種

耐性菌 接種

図 ストロビルリン系剤耐性菌の確認



発病株早期除去

効果なし

薬剤選択

図 空気伝染による発病の確認

■うどんこ病の防除対策の検討

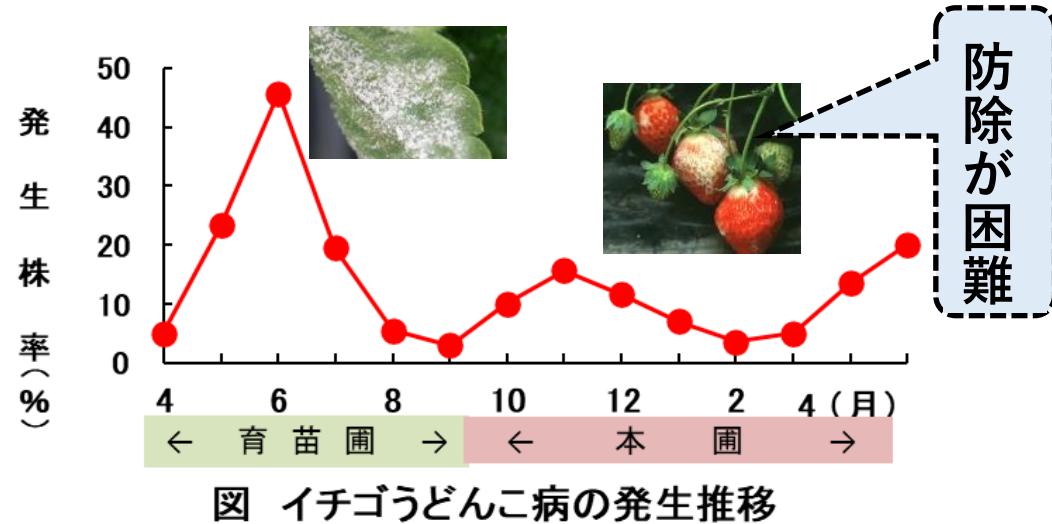


図 イチゴうどんこ病の発生推移

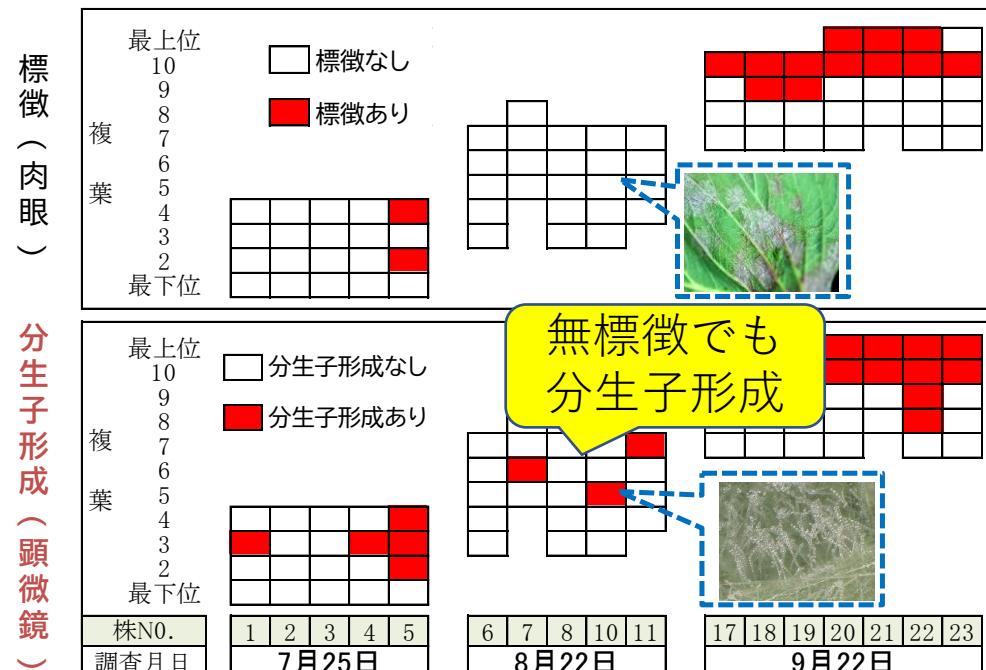
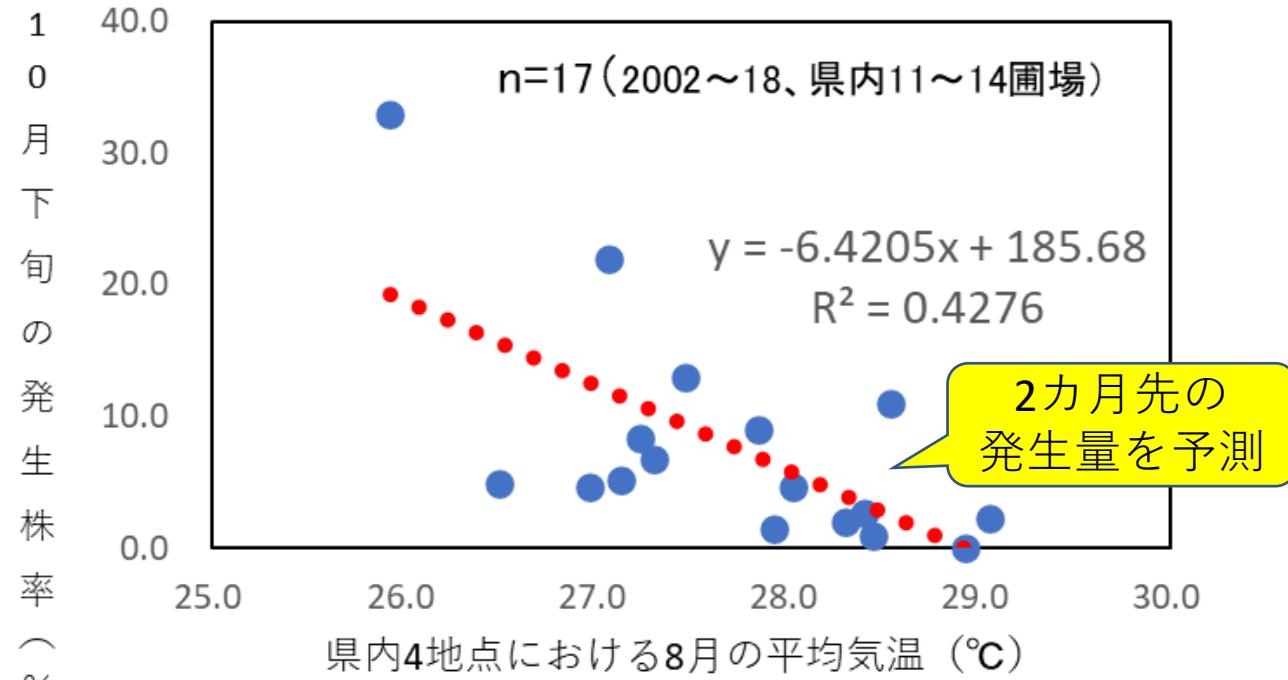


図 イチゴうどんこ病の標徴と分生子形成の推移(2011)



- 育苗期の薬剤防除
- 発生予察への利用

イチゴの生産性向上

⇒ 病害の発生生態解明による効果的防除技術の確立

